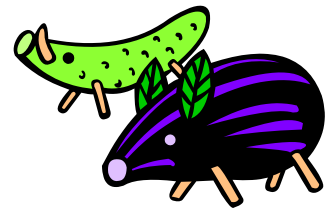


さくらだより

平成20年8月号

『ホタル』

事務長 星野久美夫



夏の風物詩のホタル、早い地域では5月から6月ごろに発生するそうです。日本には40種類以上のホタルがいるといわれております。ゲンジボタルや、ヘイケボタル、ヒメボタルなどが良く知られております。ホタルにまつわる慣用句や歌もたくさんあります。旬の時期が短い喩で「ホタル二十日に蟬3日」や夏はホタルの光で、冬は雪明りで勉強すると言う意味で苦学することの喩えの「蛍雪、蛍雪の功、蛍の光窓の雪」、歌では「蛍こい」や「蛍の光」などがあります。

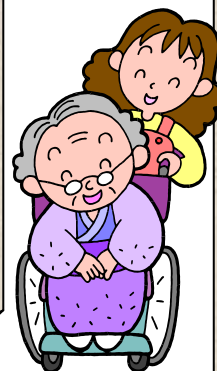
昔は水もきれいであちらこちらの川辺や田んぼの上で見られたものです。たんぼや畑が宅地となり生活廃水がたれ流しとなった結果、水が汚れ、餌となるカワニナがいなくなり、今は水のキレイな川辺や山辺の一部でしか見ることができなくなりました。ホタルを見たこともない子供たちも多く、わざわざ生息地まで観賞に行く家庭もあるようです。県央地域では弥彦神社のもみじ谷や下田の漢学の里近辺で見られるようです。

人間のわがままで環境破壊や、温暖化により世界中で異変が起きています。一人一人がエコに関心を持ち、近場でホタルが生息し、観賞できるような環境を作り、四季折々の風物を楽しみ、ゆとりある生活を送りたいものです。

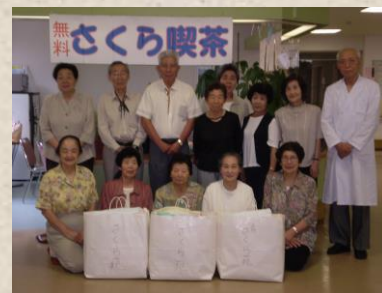
三条厚生年金受給者協会加茂支部
福祉部会の皆様より古着をたくさん
カットしていただきました



ありがとうございました



加茂市老人クラブ連合会様よりお見舞
とタオルをいただきました。



ありがとうございました

ハピリ通信

「失敗（ミス・エラー）を減らすために」

仕事や日常生活で失敗することは誰にでもあることです。今回は失敗について取り上げてみたいと思います。

まず失敗は、その内容から以下のように分けられます。

失敗の内容による分類

- ・ミス・イク・・・思い込みエラー。大丈夫のはずと思って起こる失敗など。
- ・スリップ・・・うっかりミス。一連の工程の一部を飛ばしたり、間違えたりすることで生じる失敗。
- ・ミッション・エラー・・・能力以上のことをしようとするにより生じる失敗。
- ・ラップス・・・ある行動を実行すべき時点で、思い出すことができず、実行できなかった場合に生じる失敗。

重要なことは、失敗は起こるものとしてとらえる。重大な失敗を起こさない、起きないようにすることが肝心。自分の短所に起因する失敗は、原因(短所)を理解したうえで、自分の努力と工夫、周囲の協力を得るなどして解決する。複数の職員が共通する失敗は、人の能力の限界に起因するものとしてとらえ、全体で討議し、環境（物理的環境・仕事の仕方など）を改善する。

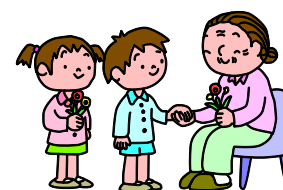
誤りに強い環境づくりとして

- ・誤りばかりでなく、正解や達成したことの方にも目を向ける。なぜ成功したのか、成功の条件を考える。
- ・誤りを個人に帰属させない。誤らせた外部の状況要因に目を向ける。
- ・重大な誤りがおこる場合には、そこだけフル・プール（誤った行為は相当努力しないとできない）やフェイル・セーフ（誤っても安全なようにしておく）を施す。ほかにロックイン（割り込みを受け付けない）、ロックアウト（危険なところには近づけない）、多重防護（複数の保険をかける）、フェイルダウン（不具合が生じたらまず止まる）などがある。

人には失敗がつきのものです。それに加え認知症が発症すれば、なおさらのことと思います。十分な治療方法がない今、私たちができることは、安全かつ快適に暮らしていただくことだと思います。その安全を守るには、周囲が変わる必要があります。認知症高齢者の介護者のストレスは大きいものですが、ちょっとした工夫、環境への配慮で少しでもそのストレスが軽減すればなによりと思います。

（理学療法士 渡辺庄治郎）

葵幼稚園の皆さんが来苑されました



認知症

……あれ？おかしいな？と思ったら

☆認知症は加齢ではなく病気です

認知症とは脳や体の疾患が原因で物事を記憶したり、判断したりする機能が低下する病気で、加齢による「物忘れ」とは異なります。若い人の場合でも、脳の病気や特定の病気が原因で起こる事もあります。認知症が進行すると、日常生活が困難になってきます。相談にこられるご家族のお話を聞いていると、みなさん最初は「年のせい？」と思い、病院へは行かず、どうしたらいいんだろうという不安や混乱を持ち続けてきた方が多いように思います。認知症は病気です。診断や治療を受け、普段と変わった行動が、病気によるものだとわかれば、不安や混乱も少なくなり、これからの対応の見通しがたてられます。

☆加齢による物忘れと認知症の違い

加齢による物忘れの場合、生理的な脳の変化なので、忘れたことを自覚していますし、新しい事を覚える能力もあります。そのため日常生活にはほぼ差し支えありません。

認知症の場合は、脳の疾患が原因です。そのため、忘れたことの自覚がない・しなくなる、新しいことを覚えられない、手順や段取りを組み立てられない、道具をうまく使えない、ということが起きてきます。また、不安、うつ、興奮、幻覚や妄想、徘徊などの症状が現れ、日常生活に大きな支障が出てきます。(症状の現れ方には個人差もあります)

☆早期診断・治療が必要です！

認知症を引き起こす病気にはさまざまなものがあり、およそ20種類以上あると言われています。原因として最も多いアルツハイマー型認知症は、早期に治療を始めれば進行を遅らせることが可能です。慢性硬膜下血腫などの場合、手術などで原因を取り除くことによって治ることがあります。また認知症とまぎらわしいもので、うつやせん妄があります。なにが原因で認知症の症状がでているのかを知ること、どのような治療が有効かわかります。まずは早期に診断を受けましょう！

☆どこに相談にいけばいいの？ 県内にある相談機関の一部をご紹介します。

- ・ かかりつけ医や専門医（精神科、神経科、神経内科）。物忘れ外来を設置している病院（県内に10カ所）もあります。
- ・ 老人性認知症疾患センター（県内6カ所）、高齢者総合相談センター（ユニソンプラザ3F）。
- ・ 各市町村の保健所や地域包括支援センター（旧在宅介護支援センター）に問い合わせると、相談に応じたり、病院を紹介してくれます。

※県内の相談機関（病院など）を詳しくお知りになりたい方は、当苑の相談員におたずね下さい。病院を受診する時は、無理強いしたり、嘘をついて連れていくのは、家族への不信感が高まるだけなので、避けたほうがよいでしょう。本人が納得した上で行きましょう。自尊心を傷つけないように、健康のために検診を受けようと説明するのも一案です。



栄養科より

「夏の野菜」

さくら苑の中庭に、夏野菜の枝豆・きゅうり・茄子が実をつけています。旬の野菜は栄養価が高く、ビタミンも豊富で、なんといっても採れたて野菜は、「おいしい！」

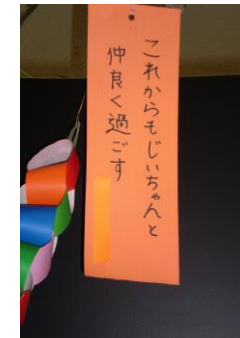
また「中庭で採れた野菜です。」と食べていただくと、大変喜ばれます。

さくら苑では、年に何回か「おかわり自由給食」を行っています。「山菜の天ぷら」「干しかぶの煮しめ」「新じゃがいもの煮ころがし」「さつまいもご飯」「煮菜」等、春夏秋冬の季節の野菜を味わい、昔から食べているなつかしい料理を食べていただきたいと思います。

レクリエーションの紹介



毎日行われているレクリエーションです。季節ごとの行事にあわせた作品などを作ったり、風船バレーやタオルリレーなど毎日工夫しております



七夕の短冊作り
思い思いの短冊を書いて
もらいました

納涼会が開催されました

7月12日（土）たくさんのボランティアさんをお迎えして納涼会が開催されました。

